

**「『団塊の世代』の就業と生活のビジョン」フォローアップ調査結果  
－「団塊の世代」：60歳定年の正社員の「この一年」－**

The Japan Institute  
for  
Labour Policy and Training



「『団塊の世代』の就業と生活のビジョン」フォローアップ調査結果  
－ 「団塊の世代」：60歳定年の正社員の「この一年」 －

## まえがき

いわゆる「団塊の世代」の先頭集団（昭和 22 年生まれ）が昨年（平成 19 年／2007 年）には 60 歳台入りをし、いよいよこの世代のいわゆる高齢・引退過程入りが始まった。「団塊の世代」に関連しては、それ以前より、これからのわが国経済社会の行方をめぐって種々の議論が交わされてきているが、楽観、悲観、あるいは中立いずれをとるにせよ、その動向は「団塊の世代」の人々の考えや生活設計に大きく依存することは間違いのないところである。

このため、労働政策研究・研修機構においては、これらのことを明らかにするために基礎となるデータを広く提供するとともに、適宜の分析を通して「団塊の世代」の今後における高齢期の就業や生活の方向性に関する一つの試論を提供し、政策担当者を始めとして関係者における議論の活性化を図ることを目的として、前年に当たる平成 18 年（2006 年）において、「団塊の世代」を対象に今後の引退過程における就業をはじめとする生活設計や見通しなどについてアンケート調査（『団塊の世代』の就業と生活のビジョンに関する調査）（平成 18 年 10 月実施）を実施した。調査結果データは JILPT 調査シリーズ No.30 にとりまとめるとともに、そのデータを分析した結果は JILPT 労働政策研究報告書 No.85 にとりまとめ公表した。

さらに、それからほぼ 1 年経過し、昭和 22 年生まれの方々は全員が 60 歳を迎えられている本年 2 月に、先の調査の回答者で、60 歳定年の適用を受ける正社員であるとされた方々を対象にフォローアップの調査を実施した。この調査シリーズ No.48 は、その結果データを取りまとめ、概説したものである。この 1 年が、「団塊の世代」のうち 60 歳定年企業の正社員の人々にとってどのような変化をもたらしたのかを、少しでも描くことができれば幸いである。

調査にご協力いただいた皆様にあらためて感謝申しあげるとともに、この調査シリーズが、この問題に関心を持たれる方々によって広範囲に活用されることを期待し、また願うものである。

2008 年 6 月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 稲 上 毅

執筆者

氏名 所属

あさお ゆたか  
浅尾 裕 (労働政策研究・研修機構主席統括研究員)

# 目 次

第Ⅰ部 調査の概要	1
Ⅰ－1 調査の目的	1
Ⅰ－2 調査対象者及び回答状況	2
Ⅰ－3 調査の方法	2
Ⅰ－4 調査の内容	2
(付)『団塊の世代』の就業と生活のビジョンに関するフォローアップ調査」調査票	7
第Ⅱ部 調査結果の概要	19
第1章 回答者の概観	19
1－1 回答者の主な属性	19
1－2 回答者のこれまでの経歴	20
1－3 回答者のキャリアの状況	24
第2章 この1年における就業状態の変化の状況	27
2－1 就業状態の変化(概観)	27
2－2 この1年の転職者における就業条件の変化	28
2－3 定年制、就業継続制度の状況	
(同じ会社等に勤めている雇用者の回答)	33
2－4 同一企業等で雇用を継続している昭和22年生まれ の人々の状況	37
第3章 高齢期における就業ビジョン	44
3－1 現在の会社等での就業継続希望の状況	44
3－2 収入を伴う就業希望上限年齢と高齢期における就業見通し	51
第4章 高齢期における生活ビジョン	64
4－1 高齢期における生活ビジョン関連項目の調査結果の概観	64
4－2 この1年の間で変化の大きかった項目についての若干の補足	68
第5章 三つの補遺	74
5－1 女性回答者のデータ	74
5－2 政治や行政への要望(自由記入欄のまとめ)	83
5－3 学歴別構成調整後の試算データ	92
統計表	99
1. 単純集計結果(前回調査との異同を含む。)	101
2. 基礎集計結果統計表	129